

*****NPO (9)*****

第81号

1988年 8月 3日

宇電懇ニュース

宇宙電波懇談会事務局発行

(東京大学理学部)

目次

- I. 第11回宇電懇運営委員会報告
- II. 国立天文台電波天文学専門委員会報告
- III. 宇電懇シンポジウムのお知らせ
- IV. 事務局からのお知らせ

I. 第11回宇電懇運営委員会報告

日 時： 1988年 7月 15日 12:00-13:00

場 所： 野辺山宇宙電波観測所

議題： 国立天文台電波天文学専門委員会 台外委員の推薦

国立天文台の電波天文関係の運営を議論する電波天文専門委員会の台外委員7名を以下のように推薦することを決めました(順不同、敬称略)。

宇宙電波： 祖父江(東大)、田原(宇都宮大)、土佐(東北大)、福井(名大)

太陽電波： 小杉(東大)

他分野： 小暮(京大)、奥田(宇宙研)または斉藤(修)(名大)

(奥田氏と斉藤氏については、本人の意向も聞いて海部系主幹が決定する。)

委員の選出方法については、東京天文台(現国立天文台)のアンケート調査の結果、宇電懇会員による直接選挙が適当だという意見が会員の中には多いことがわかっていました(昨年のNROシンポジウム集録を参照)。しかし今回は45m望遠鏡の共同利用の実務(プロポーザルをレフェリーに仕分けて発送する等)のため、7月下旬に電波天文専門委員会を開いてプログラム小委員会委員を決める必要があり、時間がないのでやむを得ず宇電懇運営委員会の推薦という形式をとったわけです。今回の選出方法は次回以降の選出の際の前例にはなりません。

今期の専門委員の任期は1990年の3月までで、それまでに十分な時間的余裕をもって望ましい選出方法を議論し、決めておかねばなりません。来年のNROシンポジウムの重要な案件となるでしょう。(長谷川)

Ⅱ. 第1回電波天文専門委員会報告

日 時： 1988年 7月 22日

場 所： 国立天文台（三鷹）

議事に先立ち古在会長から台内委員として家、石黒、井上、鰐目、甲斐、海部、笹尾、森本、台外委員として奥田、小暮、小杉、祖父江、田原、土佐、福井各氏が選ばれたことが報告された。

1. 委員長として海部委員、副委員長として田原委員を決めた。

2. 報告事項

国立天文台、野辺山電波天文台の組織と運営

電波ヘリオグラフ、スペースVLBI計画の現状など

3. 専門委員会の運営について

役 割：従来の野辺山宇宙電波観測所共同利用委員会の役割とほとんど同じと考えてよいだろう。

小委員会：プログラム小委員会については、委員として奥田、小平、石黒、海部（再任）および祖父江、井上（新任）を決めた。

4. 63年度事業計画

宇宙電波関係：干渉計の共同利用について詳しく議論した。

プロポーザル締め切り10月10日、共同利用期間1～4月など。

太陽電波関係：主としてデータの共同利用になる。豊川の観測施設は、偏波計は野辺山に新設することとし、それまでの間、干渉計は暫く運転を続ける。

5. 64年度概算要求

電波ヘリオグラフの設置、超長基線干渉計天体物理部門の新設、研究棟の増築など。

以上が承認されました。（森本）

Ⅲ. 鈴木博子さん追悼 宇宙電波シンポジウム 「暗黒星雲の化学と物理」

標記の研究会を下記のように開催します。近く第一サーキュラーを送付します。

期 日：1988年11月23日～25日

場 所：山梨県 清里 「清泉寮」

世話人：海部（NRO）、大石（富山大）、斉藤、山本（名大）、

川口（分子研）

連絡先：NRO海部（または細田）

VI. 事務局からのお知らせ

1. 会員動向

新入会員：久野成夫（東北大理・天文）、能丸淳一（京大理・宇宙）、
石附澄夫、鄭玄洙、土居守、三好真（東大理・天文）、
平原靖大（東大理・化学）

移 動：国森裕生 郵政省通信政策局→郵政省通信総合研究所

名称変更：前号の宇宙電波懇談会No80で、東京大学東京天文台のみが国立天文台へと名称変更されたように書いてしまいましたが、下記の2機関も国立天文台の一部となりました。お詫びして訂正致します。
文部省緯度観測所 → 文部省国立天文台水沢センター
名古屋大学空電研究所第3部門
→ 文部省国立天文台電波天文学研究系

2. 会費納入のお願い

新しい事務局の活動のため、会費の納入をお願いします。すでに本年度分を納入してくださった方はどうもありがとうございました。会費は年会費が1000円です。事務手続きの簡便化のために、1988年度分と1989年度分の2000円を一緒に納入していただければ幸いです。同封しました払込通知票に、

口座番号： 東京 6-369468

金 額： 2000円（2年分）

加入者名： 宇宙電波懇談会事務局

払込人住所氏名

を記入し、お近くの郵便局で払い込んでください（手数料はいりません）。よろしく願いいたします。

宇宙電波懇談会事務局

祖父江義明（代表）

長谷川哲夫（ニュース編集）

田中 培生（ニュース編集）

林 正 彦（会計）

〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1

東京大学理学部天文学教育研究センター

Tel. 0422-32-5111（内線330）

Fax. 0422-32-9851

郵便振替口座 東京 6-369468

(付録) 人事のお知らせ

宇宙電波懇談会運営委員長

田原博人 様

宇宙科学研究所超遠距離通信工学部門

助教授候補推薦のお願い

上記について宇宙科学研究所長から別紙のような依頼を受けました。特に私には「電波天文学分野への周知」の任務が与えられましたので、お伝えいたします。電波天文学にとっても重要な人事と考えます。どうかよろしく願いいたします。

1988年7月21日

野辺山電波天文台森本雅樹

超遠距離通信工学部門

助教授人事について

本部門は、さきがけ、すいせい、および将来計画で検討されている金星、月ミッション、サンプル・リターン・ミッション等惑星間を航行する探査機との超遠距離通信において、その追跡、大量データ伝送等を担当することになっていきます。またスペースV L B I衛星をはじめとするV L B I (超長基線干渉技術) 計画において数十億光年のかたにあるクエーサー等の天体からの極めて微弱な電波を受信する設備を研究開発し、その大量データ伝送および相関処理等も分担することになっていきます。

宇宙研においては将来スペースV L B I衛星を実現すべく計画中でありますが、今回の本部門助教授の人事につきましては、上記超遠距離通信の職務に加え、特にスペースV L B I計画実現にあたっての検討準備作業を行なう意欲的な方を考えております。

つきましては適任の方を御推薦賜わりたくお願いいたします。

なお本部門の教授には宇宙研・西村敏充が就任しています。

註

- ・ (宛先) 宇宙科学研究所 所長 西村純
〒229 相模原市由野台 3-1-1

- ・ (締切) 昭和63年8月15日

- ・ (必要書類) 本人の履歴書、
研究歴、
論文リスト、
推薦状 (2通)

- ・ (問合わせ先) 西村敏充
宇宙科学研究所 TEL (0427) - 51 - 3911
(内線 2308)